

第 122 号

Super Highway

春闘速報 9

発行日
2024. 3. 8

J R 東労組バス関東本部

申 3 号 第 1 回団体交渉 要旨②

組合) 生活状況、食料品の値上がりという認識はあるのか？

会社) 賞与とは違うので、そこは認識を持っている。賃金制度を変え、新賃金を作っていくというのは、中長期的な経営状況を照らし合わせながらということになる。皆さんに還元したいのはやまやまだが、せっかく黒字だったものが赤字になって、みなさんに迷惑をかけてはいけなくて、バランスを見ながらやっていかなければならない。

組合) 賃金改正提案と春闘は別と認識しているということでもいいか？

会社) 55 歳のことや賃金改正を行ったから、もう賃金申し入れは終わっただろうというつもりはない。定期昇給とともに新賃金をどう考えていくかという認識であって、中長期的な賃金の問題なので全く分けて考えるというものではなく、会社側としてはいろいろと考えていかなければならない。

組合) コロナが終わって、上がっていくのが普通だという考えはある。この会社で働いていて良かったと思えるように、賃金の引き上げを考えていただければと思っている。

会社) もちろんそういう気持ちでずっと、それはコロナ前から今も全く変わっていません。お客様からの収入を伸ばすというのは社員一人一人の働きがあってのこと。そこに還元していくというのは会社の大切な役割である。

組合) 第三四半期の資料で、J R 東日本会社は本業の稼ぎが回復していないと主張しているようだが、バス関東会社も関連事業の収入があつての利益が上がっているのではないか？

会社) 今までバス事業単体で黒字というのはない。バス事業がこうだからっていうと交渉にならない。積み上げてきたものをどうやってみんなに還元していくか、若干の順序を作っていくながらやっていくのは今の利益規模ならやむを得ない。車の問題もあって、黒字が出た分を全額人件費で還元できないところがある。バランスを見て中長期的なものも見て議論していかなければいけない。収入を増やしていかないと何もできないというのはコロナ中も言い続けてきたことで協調しながらやっていきたいというのは今までもこれからも変わらない。

J R バス関東で働く仲間を一つに！